



Linux版Talend Open Studio for Big Dataインストールお よびアップグレードガイド

7.3.1

Last updated: 2020-02-19

目次

Copyright	3
Talend Open Studio for Big Data: 前提条件	5
このインストールガイドについて.....	5
インストールの準備.....	5
ハードウェア要件.....	6
ソフトウェア要件.....	7
XULRunnerパッケージのインストール.....	13
JAVA_HOMEの設定.....	13
手動によるTalend Open Studio for Big Dataのインストール	15
Talend Studioのインストールと設定.....	15
Talend製品のアップグレード	25
環境のバックアップ.....	25
Talend StudioでTalendプロジェクトをアップグレード.....	25
付録	26
サポートされる他社のシステム/データベース/ビジネスアプリケーションのバージョン.....	26

Copyleft

7.3.1に対応しており、以前のリリースの更新版となります。

このドキュメントの内容は公開の時点で正確なものです。

ただし、オンライン([Talend Help Center](#))で最新の更新バージョンが入手できる場合があります。

このドキュメンテーションは、クリエイティブコモンズ公共ライセンス(CCPL)の条件の下で提供されています。

CCPLに準拠した本ドキュメンテーションにおける許可事項および禁止事項の詳細は、<http://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.0/>を参照してください。

商標について

TalendはTalend, Inc.の商標です。

すべてのブランド、商品名、会社名、商標、およびサービスマークは各所有者に帰属します。

ライセンス契約

このドキュメンテーションに記述されているソフトウェアは、Apache License、バージョン2.0 (以下「本ライセンス」という)の下でライセンスされています。本ライセンスを遵守せずに、このソフトウェアを使用することはできません。ライセンスのコピーは、<http://www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0.html>で取得できます。当該の法律による要求または書面での同意がない限り、本ライセンスの下で配布されるソフトウェアは、「現状有姿」で、明示または暗示にかかわらず、あらゆる保証あるいは条件なしで提供されます。ライセンスの下で許可および制限を適用する特定の言語のライセンスを参照してください。

本製品には、AOP アライアンス(Java/J2EE AOP標準)で開発されたソフトウェア、ASM、Amazon、AntLR、Apache ActiveMQ、Apache Ant、Apache Avro、Apache Axiom、Apache Axis、Apache Axis 2、Apache Batik、Apache CXF、Apache Cassandra、Apache Chemistry、Apache Common Http Client、Apache Common Http Core、Apache Commons、Apache Commons Bcel、Apache Commons JXPath、Apache Commons Lang、Apache Datafu、Apache Derby Database Engine and Embedded JDBC Driver、Apache Geronimo、Apache HCatalog、Apache Hadoop、Apache Hbase、Apache Hive、Apache HttpClient、Apache HttpComponents Client、Apache JAMES、Apache Log4j、Apache Lucene Core、Apache Neethi、Apache Oozie、Apache POI、Apache Parquet、Apache Pig、Apache PiggyBank、Apache ServiceMix、Apache Sqoop、Apache Thrift、Apache Tomcat、Apache Velocity、Apache WSS4J、Apache WebServices Common Utilities、Apache Xml-RPC、Apache Zookeeper、Box Java SDK (V2)、CSV Tools、Cloudera HTrace、ConcurrentLinkedHashMap for Java、Couchbase Client、DataNucleus、DataStax Java Driver for Apache Cassandra、Ehcache、Ezmorph、Ganymed SSH-2 for Java、Google APIs Client Library for Java、Google Gson、Groovy、Guava:Java、H2 Embedded Database、およびDBCドライバーのためのGoogle CoreLibraries、ヘクター: Apache Cassandraのための高レベルのJavaクライアント、Hibernate BeanValidation API、Hibernate Validator、HighScale Lib、HsqlDB、Ini4j、JClouds、JDO-API、JLine、JSON、JSR 305: Annotations for Software Defect Detection in Java、JUnit、Jackson Java JSON-processor、Java API for RESTful Services、Java Agent for Memory Measurements、Jaxb、Jaxen、JetS3T、Jettison、Jetty、Joda-Time、Json Simple、LZ4: Extremely Fast Compression algorithm、LightCouch、MetaStuff、Metrics API、Metrics Reporter Config、Microsoft Azure SDK for Java、Mondrian、MongoDB Java Driver、Netty、Ning Compression codec for LZ4 encoding、OpenSAML、Paracel JDBC Driver、Parboiled、PostgreSQL JDBC Driver、Protocol Buffers - Google's data

interchange format、Resty: Java、Rocoto、SL4Jのための単純なHTTP RESTクライアント: Java用のシンプルなLogging Facade、SQLite JDBC Driver、Scala Lang、Simple API for CSS、Snappy for Java a fast compressor/decompresser、SpyMemCached、SshJ、StAX API、StAXON - JSON via StAX、Super SCV、The Castor Project、The Legion of the Bouncy Castle、Twitter4J、Uuid、W3C、Windows Azure Storage libraries for Java、Woden、Woodstox: 高パフォーマンスのXMLプロセス、Xalan-J、Xerces2、XmlBeans、XmlSchema Core、Xmlsec - Apache Santuario、YAML parser and emitter for Java、Zip4J、atinject、dropbox-sdk-java: Dropbox Core API用のJavaライブラリ、google-guice。各ライセンスの下でライセンスされています。

Talend Open Studio for Big Data: 前提条件

このインストールガイドについて

このガイドでは、Talend製品をインストールして設定する方法を説明しています。製品のインストールには、Talendインストーラーを使う方法、Talendモジュールを手動でインストールする方法、Red Hat Package Manager (RPM)を使う方法があります。開始する前に、「インストールの準備」を読み、インストールに関するハードウェアとソフトウェアの要件が満たされていることを確認してください。

注: Talendのサポートでは、Talend製品が機能するために必要な場合は、サードパーティのコンポーネントとデータベースに関する問題を調査致します。ただし、Talendではサードパーティのコンポーネントやデータベースのためにパッチを提供することはできません。

インストールの準備

ソフトウェアパッケージ

このページには、Talend製品をインストールするためにダウンロードが必要なソフトウェアパッケージがリスト表示されます。

下表のソフトウェアパッケージのファイル名では:

- YYYYMMDD_HHmmはパッケージのタイムスタンプ、
- A.B.Cはパッケージのバージョン番号(メジャー、マイナーパッチ)に対応します。

注: ソフトウェアモジュールは、クライアント側とサーバー側の両方で同じバージョンである必要があります。ソフトウェアパッケージをダウンロードする時に、タイムスタンプとバージョン番号が同じであることを確認してください。

手動インストールソフトウェアパッケージ

ファイル名	説明
Talend-Studio-YYYYMMDD_HHmm-VA.B.C.zip	Studio IDE (GUI) このページ からダウンロードできます。

コミュニティとサポート

Talendインストールのヘルプおよびサポートを得るための方法がいくつかあります。

- [公式Talendドキュメント](#)。ここでは、Talend製品のインストールと使用に役立つあらゆるものを見つけることができます。
- [Talendコミュニティ](#)。ここでは、コミュニティに質問を行い、回答を得ることができます。

ハードウェア要件

Talend製品をインストールする前に、使用しているマシンがTalendによって推奨される以下のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

メモリおよびディスク使用量は、目的のTalendプロジェクトのサイズや特性によって大きく異なります。ただし、多くの変換コンポーネントがジョブに含まれる場合は、次の推奨事項を基に、サーバーに割り当てるメモリの合計量をアップグレードすることを検討して下さい。

メモリ使用量

製品	クライアント/サーバー	メモリ要件 (推奨最小メモリ)
Talend Studio	クライアント	3GB - 4GB

注: モジュール上で実行されているプロセスの数によっては、利用可能なメモリを増やす必要があります。同じホストに複数の製品がインストールされている場合、Talendでは、8論理プロセッサのi7 CPUを使用することを推奨しています。

ディスク容量要件

製品	クライアントまたはサーバー	インストールに必要なディスク容量	使用に必要なディスク容量
Talend Studio	クライアント	3GB	3GB以上を推奨

1 たとえば、ディスク上に500万レコード= 10 GBの空き容量が必要です。Talendでは、ハイトランザクション中に問題が発生しないように、必須サイズの倍の空き容量を確保しておくことをお勧めします。

2 これらの要件は、MongoDBメタデータサイズを考慮しません。

3 各タスクに50の属性がある50,000タスクを含むキャンペーンにはお勧めしません。

Unixシステムでのulimit設定

TalendサーバーモジュールとUnixシステムのパフォーマンスを向上させるには、システムリソース(ulimit)をユーザーまたはグループのニーズに合わせて設定します。これらの設定は/etc/security/limitsファイルに定義されています。

ulimit構文

```
ulimit <limit type> <item> <value>
```

ulimitには、ハードとソフトという2種類のタイプがあります

- ソフトリミットは有効なリソース制限です。ユーザーはソフトリミットをハードリミットの値まで上げることができます。

- ハードリミットは最大のリソース制限です。この値はスーパーユーザーが設定し、超過することができません。

注: 制限のタイプを指定しないと、デフォルトでハードリミットタイプが使用されます。

Talendのデプロイに、以下のulimit設定が重要です。

アイテム	[Description] (説明)	フラグ	[Value] (値)
fsize	最大ファイルサイズ	-f	KB
nofile	開くことができるファイルの最大数	-n	
stack	最大スタックサイズ	-s	KB
cpu	最大CPU時間	-t	分
nproc	プロセス/スレッドの最大数	-u	

注: 使用できる全てのlimit設定を次のコマンドでリスト表示できます: `ulimit -a`

サンプル

```
ulimit -H -n 2000
```

このコマンドにより、プロセスごとに2000の開いているファイルのハードリミットが設定されます。

ulimit設定の完全な詳細は、『[SS64 reference guide for ulimit](#)』を参照して下さい。

ソフトウェア要件

互換性があるオペレーティングシステム

このページでは、Talend製品で推奨およびサポートされるオペレーティングシステムについて詳しく説明します。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

Talend Studio

表 1 : Talend Studioと互換性があるオペレーティングシステム

オペレーティングシステムファミリー(64ビット)	オペレーティングシステム	バージョン	サポートタイプ
Linux	Ubuntu	18.04 LTS	推奨
	Red Hat Enterprise Linux Server	8	サポート
		7	サポート
	CentOS	8	サポート
		7	サポート
	Microsoft	Windows	10
Windows Server		2019	サポート
		2016 (RTM)	サポート
		2012	サポート
Mac	Apple MacOS	Catalina 10.15	サポート
		Mojave 10.14	サポート
		High Sierra 10.13	サポート

互換性があるJava環境

次の表は、Talend製品を使用するためにダウンロードしてインストールするべき推奨Java環境に関する情報を示しています。

Compiler Compliance Levelは、ジョブコード生成に使用されるJavaバージョンに対応します。このオプションは、Studio環境設定で変更できます。詳細は、『Talend Studioユーザーガイド』を参照してください。

注: Talendの全製品と関連するサードパーティアプリケーション(Hadoopクラスターなど)は、コンプライアンスのために同じJavaバージョンを使用する必要があります。Talendでは、関連するサードパーティアプリケーションをインストールまたはアップグレードする前に、サポートされているJavaバージョンを確認することをお勧めしています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

StudioのJava環境

表 2 : Talend Studioと互換性があるJava環境

Javaプラットフォーム	Javaバージョン ^{1、2、3}	サポートタイプ
Open JDK	11	推奨
	8	サポート
Oracle	11	推奨
	8	サポート

1 Oracle 8の実行時には、StudioはJDKコンパイラーのコンプライアンスレベル1.8 (デフォルト)に準拠する必要があります。インストールされているJDKのバージョンが1.8.0_161未満の場合は、追加リソースである[Java Cryptography Extension \(JCE\)無制限強度管轄ポリシーファイル](#)インストールする必要があります。これはスタンドアロンジョブの実行にも適用できます。

2 Oracle 11の実行時には、StudioはJDKコンパイラーのコンプライアンスレベル11 (デフォルト)に準拠する必要があります。

3 Open JDK用に推奨されるディストリビューションは、[Zulu](#)です。

Talend ESBと互換性のあるApacheソフトウェアとJMS Broker

次の表は、Talend ESBと互換性のあるApacheソフトウェアとJMS Brokerの情報を示しています。

サポートされるApacheソフトウェア

ソフトウェア	詳細情報
Apache Karaf 4.2.7 ¹	リリースノート
Apache CXF 3.3.4 ¹	リリースノート
Apache Camel 2.24.2 ²	リリースノート
Apache ActiveMQ 5.15.10 ¹	リリースノート

1 サービスリリースアップグレード。

2 マイナーリリースアップグレード。

SOAP/JMSに対応したメッセージングブローカー

ソフトウェア	詳細情報
Apache ActiveMQ 5.15.10	リリースノート
IBM WebSphere MQ 9.1	
IBM WebSphere MQ 9.0	

ソフトウェア	詳細情報
IBM WebSphere MQ 8.5	

互換性のあるWebアプリケーションサーバー

次の表は、Talendサーバーモジュール用に推奨およびサポートされるWebアプリケーションサーバーに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

互換性のあるコンテナ

次の表は、Talendサーバーモジュール用に推奨およびサポートされるコンテナに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

Talend ESB

Runtimeコンテナ	バージョン	サポートタイプ
Talend Runtime (Apache Karaf)	7.3 ²	推奨
Apache Tomcat	9.0.30 ¹	推奨
	9.0.30 ³	サポート

1 Talend Identity Management用の推奨バージョン。

2 Talend Identity Managementには推奨されません。

3 CXF Services、Camel Routes、サービスアクティビティモニタリング、Talend Identity Management、セキュリティトークンサービスのみ。

互換性があるWebブラウザ

次の表は、Talend製品を最大限に活用できるように、推奨およびサポートされているWebブラウザに関する情報をまとめたものです。

サポートされている最小の画面解像度は1366 x 768 (px)です。ブラウザとシステムの設定(スケーリング、ズーム、ウィンドウサイズなど)はブラウザの互換性に影響します。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

Webブラウザ	サポートタイプ
Mozilla Firefox 331	推奨
Mozilla Firefoxの利用可能な最新バージョンまで	サポート
Microsoft Internet Explorer 11以降	サポート
Microsoft Edgeの利用可能な最新バージョンまで	サポート
Apple Safari 12以降	サポート
Google Chromeの利用可能な最新バージョンまで	サポート

注: Talendでは、最新バージョンのブラウザを実行することを推奨しています。Talend特定のバージョンが指定される場合を除き、上記のブラウザの最新バージョンがサポートされています。

互換性のあるデータベース

次の表は、Talendサーバーモジュールとともに使用可能な推奨およびサポートされるデータベースに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

互換性のあるメッセージングシステム

次の表は、Talendサーバーモジュールとともに使用可能な推奨されるメッセージングシステムに関する情報を示しています。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

互換性があるアーティファクトリポジトリ

次の表は、Talendサーバーモジュールとともに使用可能なサポートされるアーティファクトリポジトリに関する情報をまとめたものです。

このドキュメンテーションでは、次のように使用されています。

- 推奨: 経験とカスタマー事例に基づいてTalendにより推奨される環境を示します。
- サポート: リストされているコンポーネントまたはサービスの使用においてサポートされる環境を示します。
- 制限付きサポート: メモで説明されている特定の条件付きでTalendによってサポートされる環境を示します。

アーティファクトリポジトリ	バージョン	サポートタイプ
JFrog Artifactory	SaaS	推奨
	6.12 ¹	推奨
Sonatype Nexus	3.15~3.18	サポート

1 リリース日時点(2019年9月23日)で最新。

互換性がある実行サーバー

次のテーブルを使用して、実行サーバーバージョンとバージョンTalend Administration Center、Talend CommandLine、Talend Studioとの間に互換性があることを確認します。

注: このセクションに記載されている情報は公開日当日には有効ですが、後日変更される場合があります。

ジョブサーバー(Talend JobServerおよびTalend Runtimeのジョブサーバー)

バージョンTalend Administration Center、Talend CommandLine、Talend Studio	互換性があるTalend JobServerバージョン
7.3.x	6.4.x、6.5.x、7.0.x、7.1.x、7.2.x、7.3.x

警告:

Talend Administration CenterでSSLとトークン認証をアクティブ化する場合、使用できるのはSSL/トークン認証をサポートするジョブサーバーのみです。Talend Administration Centerは、暗号化された通信をサポートしていない古いジョブサーバーを監視できません。

詳細は、「[SSL転送と認証の設定](#)」を参照してください。

XULRunnerパッケージのインストール

LinuxでStudioを実行するにはXULRunnerパッケージが必要です。推奨されるXULRunnerパッケージバージョンはXULRunner v 1.9.2.28です。

サポートされているバージョンはv1.8.x - 1.9.xおよびv3.6.xです。

手順

1. [この場所](#)からXULRunner v1.9.2.28をダウンロードします。
2. Studioアーカイブを展開したディレクトリでアーカイブファイルを展開します。ただし、Studioフォルダー内には展開しないで下さい。
3. Linuxアーキテクチャに対応するStudio.iniの最後に以下の行を追加します:

```
-Dorg.eclipse.swt.browser.XULRunnerPath=</usr/lib/xulrunner>
```

</usr/lib/xulrunner>はXULRunnerのインストールパスを示しています。

例

たとえば、ユーザーのホームディレクトリーの/home/<user>/Talend/下のディレクトリーにStudioを展開した場合は.iniファイル以下のように追加します:-Dorg.eclipse.swt.browser.XULRunnerPath=/home/<user>/Talend/xulrunner/

JAVA_HOMEの設定

Talend製品でマシンにインストールされているJava環境を使用するには、JAVA_HOME環境変数を設定する必要があります。

手順

1. Javaがインストールされているフォルダーを見つけます。
たとえば、次のような場合があります:
 - /usr/lib/jvm/java-x-oracle
 - /usr/lib/jvm/zulu-8/bin
2. 端末を開きます。
3. exportコマンドを使用して、JAVA_HOMEおよびPath変数を設定します。

たとえば、次のような場合があります:

- ```
export JAVA_HOME=/usr/lib/jvm/jre1.8.0_65
export PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH
```
- ```
export JAVA_HOME=/usr/lib/jvm/<zulu_jdk>
export PATH=$JAVA_HOME/bin:$PATH
```

4. 以上の2行を、`/etc/profile`ファイルのグローバルプロファイル、または`~/.profile`ファイルのユーザープロファイルの最後に追加します。

ファイルを変更した後に、再度ログオンする必要があります。

手動によるTalend Open Studio for Big Dataのインストール

Talend Studioのインストールと設定

アーカイブの展開

手順

1. [このページ](#)から製品をダウンロードして下さい。
2. 解凍します。

メモリー設定とJVM設定の編集

実行時およびTalend Studioの起動時にパフォーマンスを向上させるため、次の手順を実行します: `.ini`のメモリー設定を編集することができます。

手順

1. `TOS_BD-linux-gtk-x86_64.ini` ファイルを編集します。
2. メモリ属性を編集します。たとえば、次のような場合があります:

```
-vmargs -Xms512m -Xmx1536m -XX:MaxMetaspaceSize=512m
```

ヒント: 大きなプロジェクトでは、`Xmx`を4096mに増やす必要があります。

詳細は、<http://www.oracle.com/technetwork/java/hotspotfaq-138619.html>を参照して下さい。

Talend Studioの起動

手順

`TOS_BD-linux-gtk-x86_64`実行可能ファイルをダブルクリックしてTalend Studioを起動します。

`TOS_BD-linux-gtk-x86.sh`ファイルを使用して、ターミナルからTalend Studioを起動することもできます。

必要に応じて、次のコマンドで実行権限を追加します。

```
chmod +x TOS_BD-linux-gtk-x86.sh
```

外部モジュールのインストール

Talend Studioでは、ソースやターゲットに接続できるよう、特定のサードパーティJavaライブラリーかデータベースドライバをインストールする必要があります。

外部モジュールと呼ばれるこれらのライブラリーやドライバは、一部のTalendコンポーネント、一部の接続ウィザード、またはその両方で必要とされることがあります。ライセンスの制

限により、Talendは特定の外部モジュールの一部をTalend Studioに同梱できない場合があります。Studioを適切に動作させるには、これらをインストールする必要があります。

警告: `-Dtalend.disable.internet`パラメーターがStudioの`.ini`ファイル内に存在しないか、`false`に設定されていることを確認します。

外部モジュールをインストールするタイミング

Talend Studioに、外部モジュールのインストールが必要なタイミングとインストールする外部モジュールが表示されます。

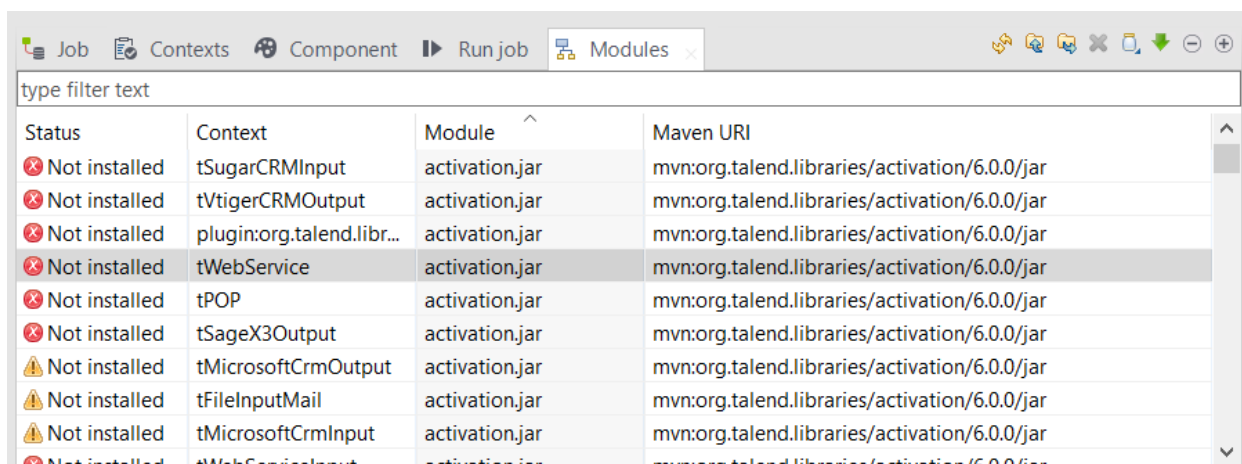
使用しているTalend Studioが、必要な外部モジュールを複数の方法で通知します。

- **[Additional Talend packages] (Talendパッケージの追加)**ウィザードは、Studioの機能を利用するためにインストールする必要がある追加パッケージ(外部モジュールを含む)がある場合に、Talend Studioの起動時に開きます。

ヒント: **[Additional Talend packages] (Talendパッケージの追加)**ウィザードは、Studioのメニューから**[Help] (ヘルプ) > [Install Additional Packages] (追加パッケージのインストール)**を選択して開くこともできます。








- デザインワークスペースでコンポーネントの動作に外部モジュールのインストールが必要な場合、このコンポーネントには赤色のインジケータが表示されます。エラーインジケータにマウスポインターを合わせると、ツールチップのメッセージで、そのコンポーネントが動作するために必要な外部モジュールが示されます。
- 1つまたは複数の外部モジュールが必要なコンポーネントの**[Basic settings] (基本設定)**ビューまたは**[Advanced settings] (詳細設定)**ビューを開くと、外部モジュールに関する主要情報が表示され、そのとなりに**[Install] (インストール)**ボタンが表示されます。**[Install] (インストール)**ボタンをクリックすると、ウィザードが開き、インストール対象の外部モジュールが示されます。
- **[Modules] (モジュール)**ビューには、インストールが必要なJavaライブラリーとドライバーを含め、Studioが正常に動作するために必要なすべてのモジュールがリスト表示されます。

デザインワークスペースに**[Modules] (モジュール)**ビューが表示されていない場合は、**[Window] (ウィンドウ) > [Show View...] (ビューの表示...) > [Talend]**と選択し、リストで**[Modules] (モジュール)**を選択します。




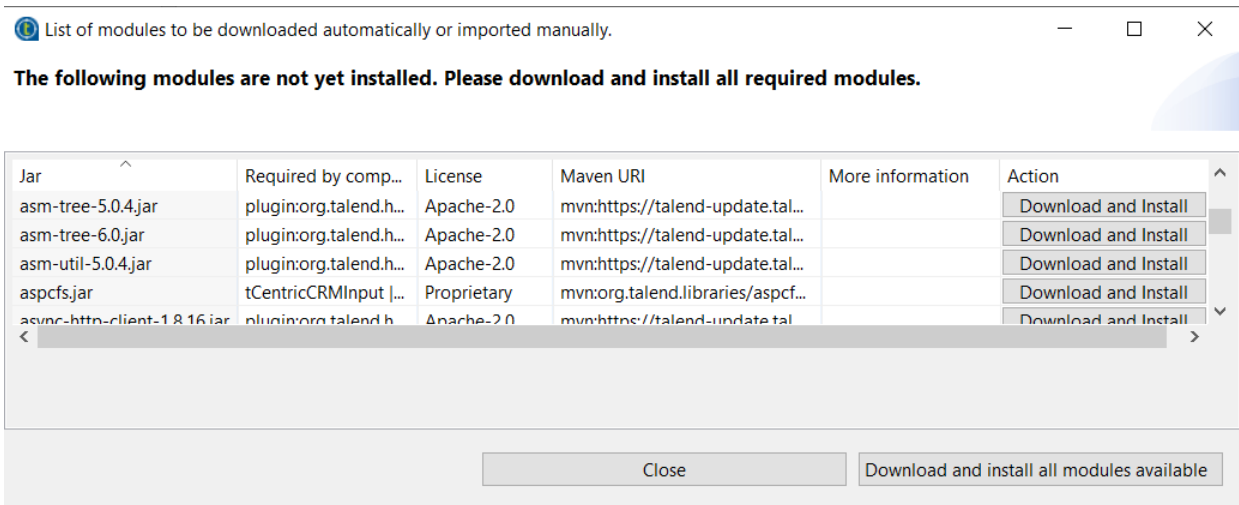
Status	Context	Module	Maven URI
Not installed	tSugarCRMInput	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tVtigerCRMOutput	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	plugin.org.talend.libr...	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tWebService	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tPOP	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tSageX3Output	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tMicrosoftCrmOutput	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tFileInputMail	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tMicrosoftCrmInput	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar
Not installed	tWebServiceInput	activation.jar	mvn:org.talend.libraries/activation/6.0.0/jar

このビューの場合:

アイテム	説明
Filter text (テキストのフィルター)フィールド	ステータスに基づいた外部モジュール、コンテキスト、モジュールファイル名、Maven URIを検索できます。
Status (ステータス)	<p>モジュールがシステムにインストールされているかどうかを示します。</p> <p> アイコンは、このカラムに表示された対応するコンポーネントまたはメタデータ接続に対してこのモジュールが必要とは限らないことを示しています。</p> <p> アイコンはコンポーネントまたはメタデータ接続に対してこのモジュールが必須であることを示します。</p>
Context (コンテキスト)	モジュールを使用するコンポーネントやメタデータ接続の名前を示します。このカラムが空の場合は、そのモジュールがTalend Studioの使用全般に必要なことを意味します。
Module (モジュール)	モジュールの正確な名前を示します。
Maven URI	Mavenでのモジュールのデプロイを一意識別します。 Maven URIフィールドをクリックし、表示される[...]ボタンをクリックすると、モジュールのMaven URIをカスタマイズできます。詳細は、 外部モジュールのデプロイを目的とするMaven URIのカスタマイズ (19ページ) を参照してください。
	<p>このビューを更新し、モジュールインストールの最新ステータスが反映されるようにします。</p> <p>共同作業であれば、あるユーザーのStudioに必要なモジュールがインストールされた場合、もう一方のユーザーは[Modules] (モジュール)ビューを更新するだけでこのモジュールを自分のTalend Studioに追加できます。</p>
	ローカルファイルからMaven設定をインポートします。
	ローカルファイルにMaven設定をエクスポートします。
	ダウンロード済みの外部モジュールをStudioにインストールできます。詳細は、 [Modules] (モジュール)ビューを使用して外部モジュールを手動でインストールする (22ページ) を参照してください。
	Jarダウンロードとインストールウィザードが開き、Talend Studioに統合されていない選択済みの外部モジュールがすべてリスト表示されます。

- Jarインストールウィザードは、以下の場合に表示されます。
 - **[Palette] (パレット)**からコンポーネントをドロップした際に、そのコンポーネントを動作させるために必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。

- Studioのメタデータ接続セットアップウィザードの**[Check] (チェック)**ボタンをクリックした際に、接続に必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。
- コンポーネントの**[Component] (コンポーネント)**ビューで**[Guess schema] (スキーマの推測)**ボタンをクリックした際に、そのコンポーネントを動作させるために必要な1つまたは複数の外部モジュールがStudioに存在しない場合。
- 1つまたは複数の必須外部モジュールが不足しているコンポーネントの**[Basic settings] (基本設定)**または**[Advanced settings] (詳細設定)**ビューの上部で **[Install] (インストール)**をクリックした場合。
- 1つまたは複数の必須外部モジュールが不足しているコンポーネントまたはメタデータ接続に関連するジョブを実行した場合。
- Studioに統合されていないモジュールを1つまたは複数選択し、**[Modules] (モジュール)**ビューで  ボタンをクリックした場合。



このウィザードの場合:

- インストールが必要な外部モジュールと、その使用を許可するライセンスがリスト表示されます。
- モジュールのデプロイを識別するデフォルトのMaven URIを利用できます。
- モジュールの詳細が記載されている公式サイトを利用できます。
- Talendリポジトリで利用可能なモジュールをすべて自動的にダウンロードしてインストールできます。
- Talendリポジトリで利用できないモジュールを手動でインストールできます。

外部モジュールを必要とするコンポーネントのドロップ、接続の設定、またはデータベースのスキーマの推測を行う際に、TalendのWebサイトでJarファイルとダウンロードURLのどちらも利用できない場合は、Jarインストールウィザードは表示されません。ただし、**Error Log** (エラーログ)ビューに、該当するモジュールのダウンロードURLが利用できなかったことを示すエラーメッセージが表示されます。自分で検索してダウンロードし、Studioに手動でインストールできます。

ヒント: タブシステムに**[Error Log] (エラーログ)**ビューを表示するには、**[Window] (ウィンドウ)** > **[Show views] (ビューの表示)**を選択し、**[General] (一般)**ノードを展開して**[Error Log] (エラーログ)**を選択します。

外部モジュールのデプロイを目的とするMaven URIのカスタマイズ

Talend Studioでは、Mavenでデプロイを識別できるように、各外部モジュールにデフォルトのURIが与えられます。Maven URIは必要であれば変更することもできます。

たとえばインストール済みのデータベースドライバーを新しいバージョンに置き換える場合は、他の別Maven URIを指定する必要があります。


注:

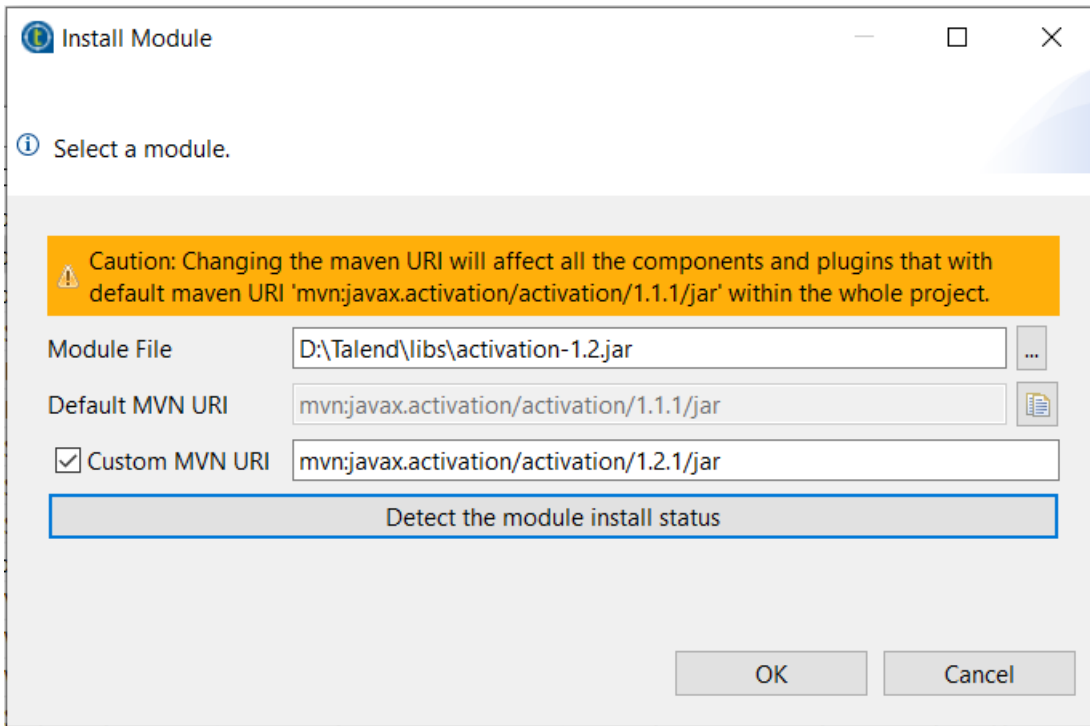
外部モジュール用にMaven URIを変更すると、プロジェクト内でそのモジュールを使用するすべてのコンポーネントやメタデータに影響します。

リモートプロジェクトで作業している場合、Maven URIのカスタム設定はTalend Artifact Repositoryと自動的に同期され、同じプロジェクトで作業している他のユーザーが外部モジュールをインストールする時に使用されます。

手順

1. **[Modules] (モジュール)**ビューで、カスタマイズするMaven URIをクリックした後、表示される[...]ボタンをクリックします。
[Install Module] (モジュールのインストール)ダイアログボックスが表示されます。
2. 外部モジュールの別のバージョンをインストールする場合は、**[Module File] (モジュールファイル)**フィールドで該当するモジュールファイルへのフルパスを指定し、[...]ボタンをクリックしてローカルのファイルシステムで参照します。
3. **[Custom MVN URI] (カスタムMVN URI)**チェックボックスを選択し、フィールドに新しいURIを入力します。

デフォルトのMVN URIフィールドの横にある  ボタンをクリックしてデフォルトのMaven URIをコピーし、**[Custom MVN URI] (カスタムMVN URI)**フィールドに貼り付けてこれを変更します。



4. **[Detect the module install status] (モジュールのインストール状況の検出)**ボタンをクリックし、**[OK]**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

タスクの結果

新しいMaven URIが有効になり、**[Modules] (モジュール)**ビューで表示されます。ここからMaven URIのすべての変更をローカルのJSONファイルにエクスポートできます。

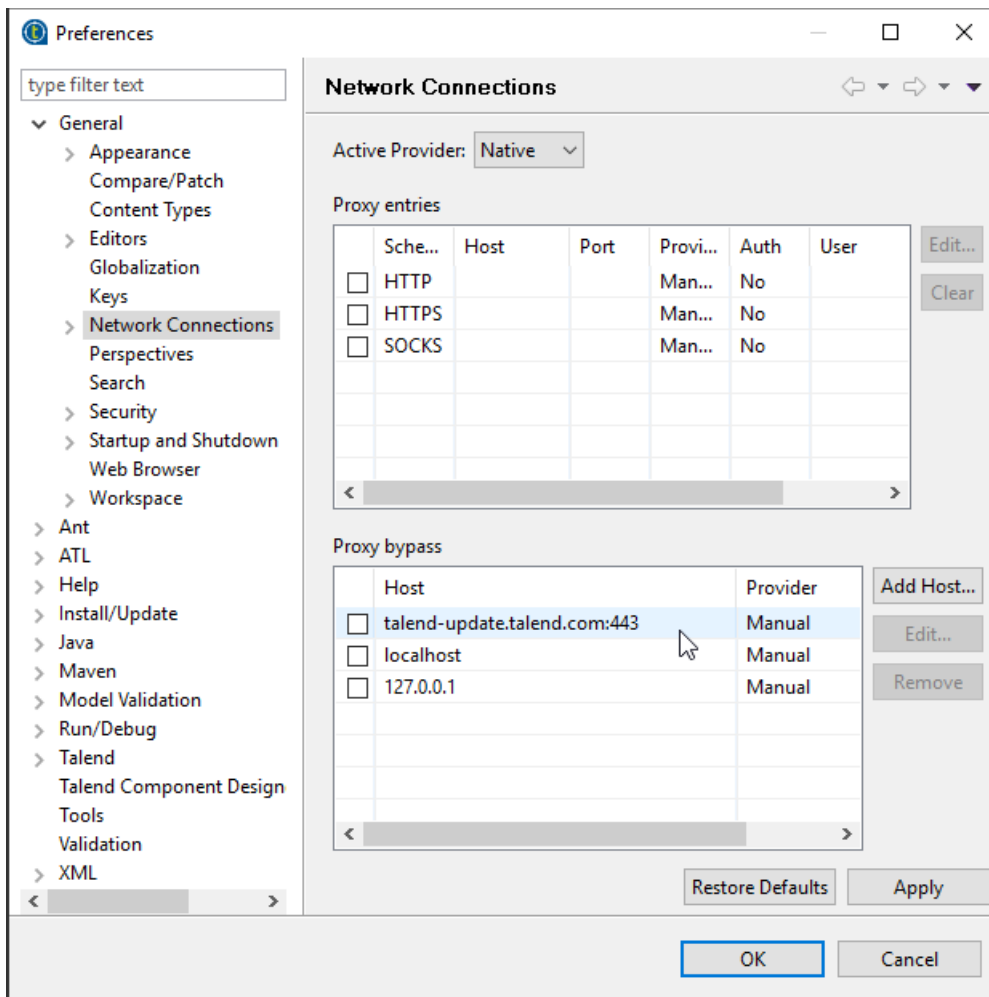
Studio内から外部モジュールをインストールする

外部モジュールのほとんどは、Talend Studioに提供されているウィザードを使用してダウンロードし、自動的にインストールすることができます。

始める前に

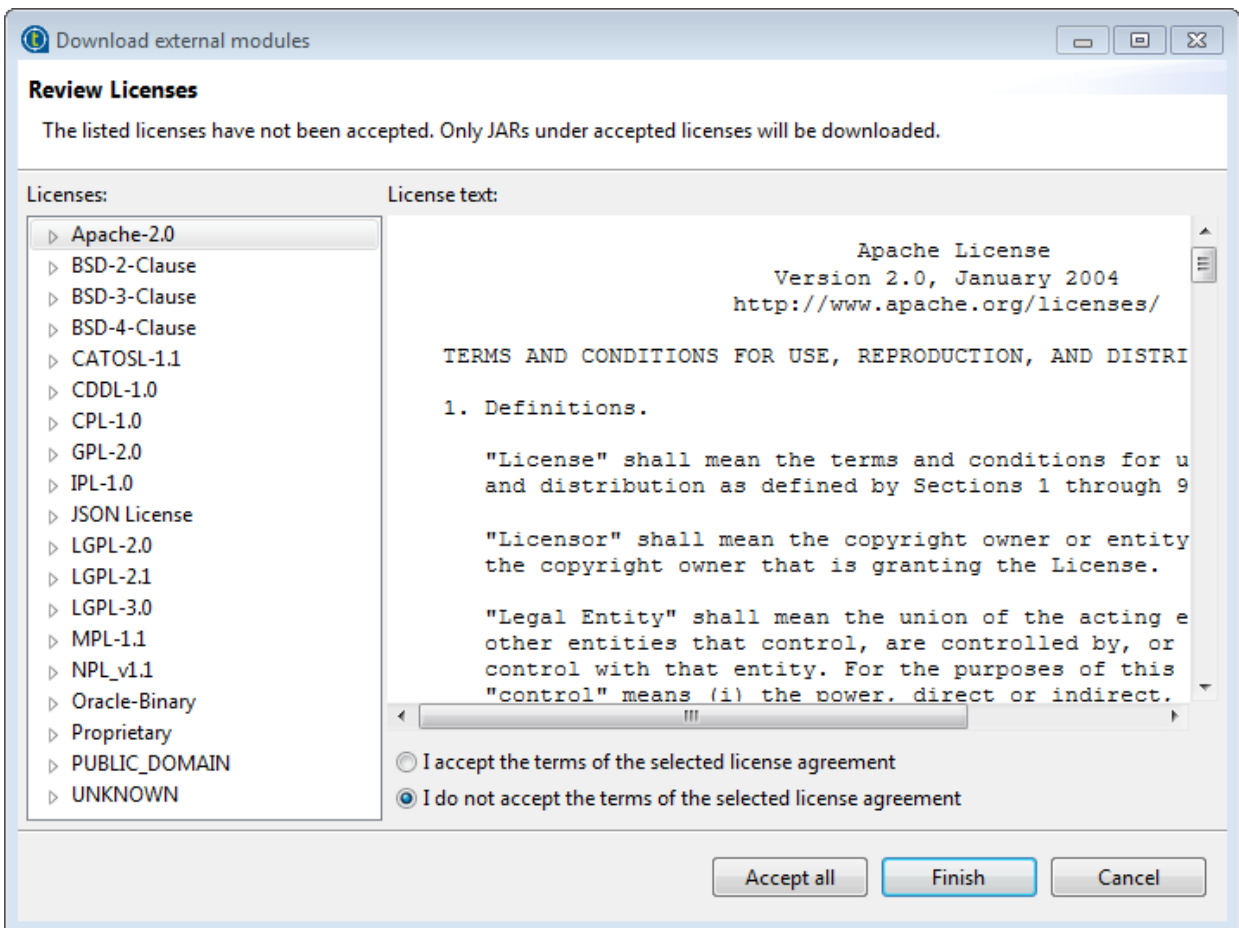
Talend Studioにセキュリティで保護されたインターネット接続があることを確認して下さい。

ネットワークプロキシを使用して作業する場合は、プロキシが正しく設定されていることを確認し、Webサイト<http://talend-update.talend.com>とポート443をホワイトリストに追加します。プロキシ設定を開くには、メニューで**[Window] (ウィンドウ) > [Preferences] (環境設定)**を選択して**[Preferences] (環境設定)**ウィンドウを開き、**[General] (全般設定)**ノードを展開して**[Network Connections] (ネットワーク接続設定)**をクリックします。



手順

1. 次の手順に従って[Download external modules] (外部モジュールのダウンロード)ダイアログボックスを開きます。
 - [Additional Talend Packages] (Talendパッケージの追加)ウィザードで[Required third-party libraries] (必須のサードパーティライブラリ)または[Optional third-party libraries] (オプションのサードパーティライブラリ)チェックボックスをオンにして、[Finish] (終了)をクリックします。
 - Jarインストールウィザードで、[Download and Install] (ダウンロードとインストール)ボタンをクリックして特定のモジュールをインストールするか、または[Download and install all modules available] (全てのモジュールをダウンロードおよびインストール)ボタンをクリックして利用可能な全てのモジュールをインストールします。



2. 利用条件に同意してダウンロードとインストールを開始します。

- 特定のライセンスで提供されている外部モジュールをダウンロードしてインストールするには、**[Licenses](ライセンス)**ペインから該当するライセンスを選択します。利用条件を確認して**[I accept the terms of the license agreement](使用許諾契約書の条件に同意します)**オプションを選択し、**[Finish](終了)**をクリックします。
- 一覧のすべてのライセンスで提供される、すべての外部モジュールをダウンロードしてインストールするには、**[Accept all](すべて同意)**ボタンをクリックします。

タスクの結果

インストールが完了すると、選択した外部モジュールがTalend Studioにインストールされ、それらのモジュールを必要とするTalend Studioのフィーチャーが使用できるようになります。


[Modules] (モジュール)ビューを使用して外部モジュールを手動でインストールする

外部モジュールがダウンロード済みの場合は、Talend Studioに手動でインストールすることができます。

始める前に

Oracle 9i用のJDBCドライバーをTalend Studioにインストールする場合は、最初にファイル名をojdbc14.jarからojdbc14-9i.jarに変更します。

手順

1. **[Modules] (モジュール)**ビューの右上またはJarインストールウィザードにある  ボタンをクリックして、ローカルファイルシステムを参照します。
2. システムの**[Open] (開く)**ダイアログボックスで、インストールするモジュールの場所に移動し、.jarファイルをダブルクリックするか、このファイルを選択して**[Open] (開く)**をクリックし、Talend Studioにインストールします。

タスクの結果

ダイアログボックスが閉じ、選択したモジュールが現在のTalend Studioのライブラリーフォルダーにインストールされます。

Talend Webアプリケーション用に外部モジュールを手動でインストールする

Talend Webアプリケーションを使用するために必要なモジュールの一部はTalend Webサイトでは入手できませんが、外部のWebサイトから直接ダウンロードすることができます。ダウンロードしたモジュールは特定のフォルダーに配置する必要があります。

手順

- Talend MDM Serverの場合は、ダウンロードしたOracle用およびMySQLデータベース用のJDBCドライバーを次のフォルダーに配置します。
`<TomcatPath>/webapps/talendmdm/WEB-INF/lib`
- Talend Administration Centerの場合は、ダウンロードしたモジュールを以下のフォルダーに配置します。
`<TomcatPath>/webapps/org.talend.administrator/WEB-INF/lib`

Studioのインターネットアクセスを無効にする

このタスクについて

Talend Studioのインターネットアクセスを無効にするには、Studioの.iniファイルを編集します。

警告: これは、カスタムコンポーネント、サードパーティのライブラリ、その他をダウンロードしてインストールするためにインターネットにアクセスする必要がある場合にのみ行って下さい。

手順

1. オペレーティングシステムに対応するStudioの.iniファイルを開き、次の行を追加します:

```
-Dtalend.disable.internet=true
```

2. Talend Studioを再起動します。
再起動すると、Studioには以下が表示されません:
 - ツールバー上の**Exchange**リンク

- **[Preferences] (環境設定)** ダイアログ内の**Talend > Exchange** ノード
- **[Additional Packages] (追加のパッケージ)** ダイアログボックス内のサードパーティライブラリをインストールするオプション
- ようこそ画面の**[Talend News] (Talendニュース)** リンク

Talend製品のアップグレード

環境のバックアップ

各Talendソリューションのデータのバックアップと移行を行う前に、環境が正しくバックアップされていることを確認する必要があります。

環境のバックアッププロセスには、以下の必須のステップが含まれます:


注: これらのステップは次の順序で完了させる必要があります。

1. ローカルプロジェクトの保存

詳細は『Talendマイグレーションガイド』の「[環境のバックアップ](#)」を参照して下さい。

ローカルプロジェクトの保存

手順

1. Studioを起動します。
2.  アイコンをクリックし、ローカルプロジェクトをアーカイブファイルにエクスポートします。

Talend StudioでTalendプロジェクトをアップグレード

ローカルプロジェクトのインポート

手順

1. インストールした新しいTalend Studioを起動します。
2. ログインウィンドウで、**[Import] (インポート)**を選択し、ローカルプロジェクトが含まれるアーカイブファイルをインポートします。

タスクの結果

ローカルプロジェクトが **[Project] (プロジェクト)** リストと、の Talend Studio **[Repository] (リポジトリ)** ビューに表示されます。

ローカルプロジェクトをアーカイブファイルにエクスポートする方法の詳細は、[ローカルプロジェクトの保存](#) (25ページ) を参照して下さい。

付録

サポートされる他社のシステム/データベース/ビジネスアプリケーションのバージョン

このドキュメントは、Talend Studioでサポートされるシステム、データベース、またはビジネスアプリケーションのバージョンについて説明します。

Talendコンポーネントによりサポートされるシステム、データベース、ビジネスアプリケーション

システム、データベース、およびビジネスアプリケーションへのアクセスは、使用しているStudioによって異なります。

システム/データベース	バージョン	OS
Access ¹	2003	Windows
	2007	Windows
Amazon Aurora	MySQLエディションv5 (5.6と5.7)	
Amazon RDS for Microsoft SQL Server		
Amazon Redshift	1.x	
AS/400	V7R1～V7R3	
Bonita	6.5.2	
	7.2.4	
	7.9.0	
Cassandra	3.0～3.4	Windows + Linux
CouchBase	5.x	Windows
	6.0	Windows
CouchDB	1.0.2	Windows
DB2	10.5	
汎用データベース	ODBC	Windows
DynamoDB		
Elasticsearch	5.6.x	
	6.4.x	
EXASolution	6.0以前	Windows

システム/データベース	バージョン	OS
Excel		
eXist-db	1.4.0	
FireBird	2.1～3.0	Windows + Linux
FTP		
Greenplum	4.3.x	Windows (クライアントのみ) + Linux
	5.x	Windows (クライアントのみ) + Linux
HSQLDb	1.8.0～2.4	
IBM DB2およびIBM DB2 Z/OS	10.5	Windows + Linux
	11.1	Windows + Linux
Informix	11.50	Windows + Linux
Ingres	10.2	Windows + Linux
	11	Windows + Linux
Interbase		
JavaDB	6	Windows + Linux
JDBC		
JSON		
Kafka ²	0.8.2.0	Windows + Linux
	0.9.0.1	Windows + Linux
	0.10.0.1	Windows + Linux
	1.1.0	Windows + Linux
	2.2.1	Windows + Linux
LDAP	バージョン制限なし	Windows + Linux
MapRDB		
MarkLogic	V9	
MaxDB	7.6	
Microsoft Azure Blob Storage		
Microsoft Azure SQL Data Warehouse		

システム/データベース	バージョン	OS
Microsoft AX	Dynamics AX 4.0	
	[Dynamics AX 2012]	
Microsoft CRM	2011	
	2015	
	2016	
Microsoft CRM Online	2011	
	2016	
	2018	
Microsoft SQL Server ³	2014～最新バージョン	Windows + Linux
MongoDB	3.6.x	Windows + Linux
	4.0.x	Windows + Linux
	4.2.x	
MySQL (英語版)	MySQL 5.x	Windows + Linux
	MySQL 8.x	Windows + Linux
	MariaDB	Windows + Linux
	Amazon RDS	Windows + Linux
	Google Cloud SQL	Windows + Linux
MOM		
Neo4j	1.x.x	Linux
	2.x.x / 2.2.x / 2.3	Linux
	3.2.x	Linux
	3.5.x	Linux
Netezza	7.0.x	Windows + Linux
	7.1.x	Windows + Linux
	7.2.x	Windows + Linux
NetSuite	2018	Windows + Linux
OleDb	2000	
	2003	

システム/データベース	バージョン	OS
	2005	
	2007	
	2010	
Oracle	Oracle 12cリリース1	Windows + Linux
	Oracle 12cリリース2	Windows + Linux
	Oracle 18c	Windows + Linux
	Oracle 19c	Windows + Linux
Palo	オープンソースバージョン5	
ParAccel	3.1	
	3.5	
PostgreSQL	v7.2～v8.x	Windows + Linux
	v9.x / v10.x / v11.x	Windows + Linux
	Amazon RDS	Windows + Linux
	Google Cloud SQL	Windows + Linux
PostgresPlus	v7.2～v8.x	Windows + Linux
	v9.x	Windows + Linux
Red Hat BRMS	6.1	Windows + Linux
RESTサービス		Windows + Linux
Salesforce	V46以前	Windows + Linux
SAP	4.6	
SAP Business Suite (ERP)	Netweaver: 7.3～7.5	Windows
	ERP6.0、EhP6～EhP8	Windows
SAP Business Warehouse (BW)	Netweaver: 7.3～7.5	Windows
SAP HANA ⁴	バージョン制限なし	Windows
SAS	9.1	Windows + Linux
	9.2	Windows + Linux
SOAPサービス		
SQLite	3.6.7	Windows + Linux

システム/データベース	バージョン	OS
SugarCRM	5.2	Windows + Linux
Sybase	12.5	Windows + Linux
	12.7	Windows + Linux
	15.2	Windows + Linux
	15.5	Windows + Linux
	15.7	Windows + Linux
	16.0	Windows + Linux
SybaseIQ	12.5	Windows + Linux
	12.7	Windows + Linux
	15.2	Windows + Linux
	16.0	Windows + Linux
Teradata	12~16	Windows + Linux
VectorWise	2	Windows + Linux
Vertica	9.0.x~9.3.1	Windows + Linux
VtigerCRM	Vtiger 5.0	
	Vtiger 5.1	

1 Java 8を使用する場合は汎用照合モードのみサポートされます。

2 Kerberos kinitオプションとKerberos keytabオプションはいずれもサポートされています。Kafkaコンポーネントがサポートするセキュリティオプションについては、[Talend Help Center](#)を参照してください。

3 Microsoft SQL ServerのサポートはMicrosoft SQL JDBCドライバー経由で提供されます。詳細は、「[Download Microsoft JDBC Driver for SQL Server](#)」のページを参照してください。

4 SAP JDBCドライバー経由でサポート

Talendメッセージングコンポーネントでサポートされているメッセージングブローカー

サポートされているメッセージングブローカー/標準	コンポーネント
JMS Standard 1.1	tJMSInput
	tJMSOutput
MicrosoftMQ 3.0	tMicrosoftMQInput

サポートされているメッセージングブローカー/標準	コンポーネント
	tMicrosoftMQOutput
JBoss Messaging 1.4.4	tMomInput
	tMomOutput
WebSphere MQ 8.0	tMomInput
	tMomOutput
ActiveMQ 5.13.2	tMomInput
	tMomOutput

サポート対象のビッグデータプラットフォーム

一般に Talend は、特定のビッグデータ(Hadoop)ディストリビューションベンダーに特定のリリースを認定します。これらは通常、そのベンダー用として使用が推奨されています。特定のベンダーによる増分アップグレードとサービスパックについては、TalendはTalendソフトウェアの正常な実行を保証するベンダーの互換性ステートメントに依存します。互換性が言及されている場合、Talendはそのバージョンを弊社のサポートSLAの下でもサポートします。互換性がないことについて、Hadoopベンダーによる検証が必要な場合、Talend は再テストとアップグレードの必要性を検討します。

使用するHadoopディストリビューションまだサポートされておらず、Talend Studioでご利用いただけない場合は、アップデートにより利用可能になる場合があります。サポート情報は[Talend Help Center](#)で検索できます。

詳細は、Talend Help Centerで最新Hadoopディストリビューションのサポートの追加を検索してください。

サポートされるすべてのサードパーティーのシステム/データベースのバージョンの詳細は、[Talendコンポーネントによりサポートされるシステム、データベース、ビジネスアプリケーション](#) (26ページ) を参照してください。

Talendジョブでサポートされているビッグデータプラットフォームディストリビューションのバージョン

通常のHadoopディストリビューション

通常のHadoopディストリビューションとTalendでサポートされているビッグデータプラットフォームの間の互換性を確認するには、以下のビッグデータプラットフォームをクリックします。

- [HBase](#)
- [HCatalog](#)
- [HDFS](#)
- [Hive](#)
- [Sqoop](#)
- [Spark](#)
- [Azure Data Lake Storage Gen2](#)

- SparkストリーミングジョブでのKafka

サポート対象のBig Dataプラットフォームのうち、古くなった各バージョンはベンダーによってサポートから外されます。Talendは、ベンダーが設定したサポート終了日を過ぎたバージョンのサポートを中止します。

ベンダーがTalend製品でのサポートを中止するバージョンを引き続き使用できるように、Talendとそのコミュニティによって便利なツールが提供されます。この理由から、該当するバージョンも次の表に記載されており、製品でも利用可能ですが、Talendはそのようなバージョンに対するサポートの提供を中止します。

Talendは、次の表にあるディストリビューションのマイナーバージョンをサポートしています。

表 3 : HBaseでサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
HDP	v2.5.0	はい
	v2.6.0	はい
	v2.6.0.3~2.6.0.8	はい
	v3.14.12-1	はい
Cloudera	5.5 (YARNモード)	はい
	5.6 (YARNモード)	はい
	5.7 (YARNモード)	はい
	5.8 (YARNモード)	はい
	5.10 (YARNモード)	はい
	5.12.1 (YARNモード)	はい
	5.13.0	はい
	6.1.1	はい
MapR ^{1, 2}	5.0.0 (YARNモード)	はい
	5.1.0 (YARNモード)	はい
	5.2.0 (YARNモード)	はい

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 4 : HCatalogでサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
HDP	v2.5.0	はい
	v2.6.0	はい
	v2.6.0.3~2.6.0.8	はい
	v3.14.12-1	はい
Cloudera	5.5 (YARNモード)	はい
	5.6 (YARNモード)	はい
	5.7 (YARNモード)	はい
	5.8 (YARNモード)	はい
	5.10 (YARNモード)	はい
	5.12.1 (YARNモード)	はい
	5.13.0	はい
	6.1.1	はい
MapR ^{1, 2}	5.0.0 (YARNモード)	はい
	5.1.0 (YARNモード)	はい
	5.2.0 (YARNモード)	はい
	6.0.0 (YARNモード)	はい
	6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード)	はい
	6.1 / MEP 6.1	はい

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 5 : HDFSでサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
HDP	v2.5.0	はい
	v2.6.0	はい
	v2.6.0.3~2.6.0.8	はい

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
	v3.14.12-1	はい
Cloudera	5.5 (YARNモード)	はい
	5.6 (YARNモード)	はい
	5.7 (YARNモード)	はい
	5.8 (YARNモード)	はい
	5.10 (YARNモード)	はい
	5.12.1 (YARNモード)	はい
	5.13.0	はい
MapR ^{1, 2}	6.1.1	はい
	5.0.0 (YARNモード)	はい
	5.1.0 (YARNモード)	はい
	5.2.0 (YARNモード)	はい
	6.0.0 (YARNモード)	はい
	6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード)	はい
	6.1 / MEP 6.1	はい

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 6 : HiveでサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
HDP	v2.5.0	はい
	v2.6.0	はい
	v2.6.0.3~2.6.0.8	はい
	v3.14.12-1	はい
Cloudera	5.5 (YARNモード)	はい
	5.6 (YARNモード)	はい
	5.7 (YARNモード)	はい

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
	5.8 (YARNモード)	はい
	5.10 (YARNモード)	はい
	5.12.1 (YARNモード)	はい
	5.13.0	はい
	6.1.1	はい
MapR ^{1, 2}	5.0.0 (YARNモード)	はい
	5.1.0 (YARNモード)	はい
	5.2.0 (YARNモード)	はい
	6.0.0 (YARNモード)	はい
	6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード)	はい
	6.1 / MEP 6.1	はい

注: Profilingパースペクティブでは、Hiveディストリビューションでの[Embedded] (組み込み型)接続がサポートされていません。このモードは主にHadoop開発者によるテスト目的で利用できます。組み込みモードでは、Studioを正しく実行できない場合があります。

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 7 : SqoopでサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
HDP	v2.5.0	はい
	v2.6.0	はい
	v2.6.0.3~2.6.0.8	はい
	v3.1.4.12-1	はい
Cloudera	5.5 (YARNモード)	はい
	5.6 (YARNモード)	はい
	5.7 (YARNモード)	はい
	5.8 (YARNモード)	はい

Hadoopディストリビューション	バージョン	Kerberos KinitとKeytabをサポート
	5.10 (YARNモード)	はい
	5.12.1 (YARNモード)	はい
	5.13.0	はい
	6.1.1	はい
MapR ^{1, 2}	5.0.0 (YARNモード)	はい
	5.1.0 (YARNモード)	はい
	5.2.0 (YARNモード)	はい
	6.0.0 (YARNモード)	はい
	6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード)	はい
	6.1 / MEP 6.1	はい

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 8 : SparkでサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Sparkスタンドアロンと連動	Spark YARNと連動	Kerberos KinitとKeytabをサポート
HDP	v2.5.0		v1.6 (非推奨)	利用可(YARNのみ)
	v2.6.0		v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)
	v2.6.0.3~2.6.0.8		v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)
	v3.1.4.12-1		v2.3	利用可(YARNのみ)
Cloudera	5.5 (YARNモード)	v1.5 (非推奨)	v1.5 (非推奨)	利用可(YARNのみ)
	5.6 (YARNモード)	v1.5 (非推奨)	v1.5 (非推奨)	利用可(YARNのみ)
	5.7 (YARNモード)	v1.6 (非推奨)	v1.6 (非推奨)	利用可(YARNのみ)
	5.8 (YARNモード)	v1.6 (非推奨)	v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)
	5.10 (YARNモード)	v1.6 (非推奨) / 2.1	v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)
	5.12.1 (YARNモード)	v2.2	v2.2	利用可(YARNのみ)
	5.13.0	v2.2	v2.2	利用可(YARNのみ)

Hadoopディストリビューション	バージョン	Sparkスタンドアロンと連動	Spark YARNと連動	Kerberos KinitとKeytabをサポート
	6.1.1	v2.4	v2.4	利用可(YARNのみ)
MapR ^{1, 2}	5.0.0 (YARNモード)	v1.3 (非推奨)	v1.3 (非推奨)	利用可(YARNのみ)
	5.1.0 (YARNモード)	v1.5 (非推奨)	v1.5 (非推奨)	利用可(YARNのみ)
	5.2.0 (YARNモード)	v1.6 (非推奨)	v1.6 (非推奨)	利用可(YARNのみ)
	6.0.0 (YARNモード)	v2.1	v2.1	利用可(YARNのみ)
	6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード)	v2.2	v2.2	利用可(YARNのみ)
	6.1 / MEP 6.1	v2.3	v2.3	利用可(YARNのみ)

1 v6.0よりも前のすべてのMapRバージョンでは、MapRセキュリティチケットメカニズムがStudioによりサポートされています。

2. MapR v6.0では、HBaseサポートがMapR-DBのために削除されました。詳細は、https://maprdocs.mapr.com/home/ReleaseNotes/install_upgrade_notes.htmlを参照してください。

表 9 : Azure Data Lake Storage Gen2 (ADLS Gen2)でサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Sparkスタンドアロンと連動	Spark YARNと連動	Kerberos KinitとKeytabをサポート
HDP	v3.1.4.12-1		v2.3	利用可(YARNのみ)
Cloudera	6.1.1	v2.4	v2.4	利用可(YARNのみ)

ADLS Gen2版のTalendでサポートされているData Cloudプラットフォームに関する情報が必要な場合は、インストールガイドの「*Talend*ジョブでサポートされている*Cloud Big Data*プラットフォームディストリビューションのバージョン」をご覧ください。

表 10 : SparkストリーミングジョブでのKafkaでサポートされているHadoopディストリビューション

Hadoopディストリビューション	バージョン	Sparkスタンドアロンと連動	Spark YARNと連動	Kerberos KinitとKeytabをサポート	Kafkaのバージョン
HDP	v2.5.0		v1.6 (非推奨)	利用可(YARNのみ)	v0.10
	v2.6.0		v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)	v0.10

Hadoopディストリビューション	バージョン	Sparkスタンドアロンと連動	Spark YARNと連動	Kerberos KinitとKeytabをサポート	Kafkaのバージョン
	v2.6.0.3~2.6.0.8		v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)	v1.x
	v3.1.4.12-1		v2.3	利用可(YARNのみ)	v2.x
Cloudera	5.5 (YARNモード)	v1.5 (非推奨)	v1.5 (非推奨)	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.6 (YARNモード)	v1.5 (非推奨)	v1.5 (非推奨)	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.7 (YARNモード)	v1.6 (非推奨)	v1.6 (非推奨)	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.8 (YARNモード)	v1.6 (非推奨)	v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.10 (YARNモード)	v1.6 (非推奨) / 2.1	v1.6 (非推奨) / v2.1	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.12.1 (YARNモード)	v2.2	v2.2	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.13.0	v2.2	v2.2	利用可(YARNのみ)	v0.10
	6.1.1	v2.4	v2.4	利用可(YARNのみ)	v2.x
MapR ^{1, 2}	5.0.0 (YARNモード)	v1.3 (非推奨)	v1.3 (非推奨)	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.1.0 (YARNモード)	v1.5 (非推奨)	v1.5 (非推奨)	利用可(YARNのみ)	v0.10
	5.2.0 (YARNモード)	v1.6 (非推奨)	v1.6 (非推奨)	利用可(YARNのみ)	v0.10
	6.0.0 (YARNモード)	v2.1	v2.1	利用可(YARNのみ)	v0.10
	6.0.1 MEP 5.0 (YARNモード)	v2.2	v2.2	利用可(YARNのみ)	v0.10
	6.1 / MEP 6.1	v2.3	v2.3	利用可(YARNのみ)	v1.x

Talendジョブでサポートされているクラウドビッグデータプラットフォームディストリビューションのバージョン

Cloud Hadoopディストリビューション

Talendは、ビッグデータで以下のクラウドプラットフォームをサポートしています。ビッグデータのサポート情報を確認する場合は、クラウドプラットフォームをクリックしてください。

- [Amazon EMR \(英語版\)](#)
- [Microsoft HDInsight \(英語版\)](#)
- [Google Dataproc](#)
- [AWS版Databricks](#)
- [Azure版Databricks](#)
- [AWS版Cloudera](#)
- [Azure版Cloudera](#)
- [AWS版Quoble](#)

サポート対象のBig Dataプラットフォームのうち、古くなった各バージョンはベンダーによってサポートから外されます。Talendは、ベンダーが設定したサポート終了日を過ぎたバージョンのサポートを中止します。

ベンダーがTalend製品でのサポートを中止するバージョンを引き続き使用できるよう、Talendとそのコミュニティによって便利なツールが提供されます。この理由から、該当するバージョンも次のテーブルのリストに記載されており製品でも利用可能ですが、Talendはそのようなバージョンに対するサポートの提供を中止します。

Talendは、次の表にあるプラットフォームバージョンのマイナーバージョンをサポートしていません。

表 11 : Amazon EMR (英語版)

Amazon EMRバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているHadoopエレメント	SparkストリーミングでサポートされているHadoopエレメント	StandardでサポートされているHadoopエレメント
v4.5.0 (Apache 2.7.2)	Standard Spark v1.6 (非推奨)	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop
v4.6.0 (Apache 2.7.2)	Standard Spark v1.6 (非推奨)	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop

Amazon EMRバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているHadoopエレメント	SparkストリーミングでサポートされているHadoopエレメント	StandardでサポートされているHadoopエレメント
v5.0.0 (Apache 2.7.2)	Standard Spark v2.0	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop
v5.5.0 (Apache 2.7.2)	Standard Spark v2.1	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop
v5.8.0 (Apache 2.7.2)	Standard Spark v2.2	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop
v5.15.0 (Hadoop 2.8.3) (Apache 2.7.2)	Standard Spark v2.3	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive	HBase HDFS HCatalog Hive Sqoop

tAmazonEMRManageコンポーネントでサポートされているAmazon EMRのバージョンは、4.5.0、4.6.0、4.9.2、5.11.0、5.15.0です。

表 12 : Google Dataproc for Big Data

Google Dataprocのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
v1.1	Standard Spark v2.0	Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON	Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON Google PubSub	Hive

Google Dataprocのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
v1.4	Standard Spark v2.4	Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON	Hive BigQuery Googleストレージ Avro Delimited Parquet 固定長ファイル XML JSON Google PubSub	Hive

表 13 : Azure版Databricks (ビッグデータ用)

Databricks on Azureのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
3.5 LTS	Standard Spark v2.2	Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1	Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1	DBFS
5.5 LTS	Standard Spark v2.4	Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1 ADLS Gen2 Snowflake DeltaLake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun	Hive Azure Blob Storage ADLS Gen1 ADLS Gen2 Snowflake DeltaLake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun	DBFS

表 14 : Databricks on AWS for Big Data

AWS版Databricksのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
3.5 LTS	Standard Spark v2.2	Hive S3 DynamoDB	Hive S3 DynamoDB Kinesis	DBFS

AWS版Databricksのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
5.5 LTS	Standard Spark v2.4	Hive S3 DynamoDB Snowflake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun	Hive S3 DynamoDB Kinesis Snowflake MongoDB TDMコンポーネント(テクニカルレビュー) tDataprepRun	DBFS

表 15 : AWS版Quoble (ビッグデータ用)

Quboleのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
Qubole Spark 2	Standard Spark v2.2	Redshift S3 DynamoDB	Redshift S3 DynamoDB Kinesis	S3 Hive

表 16 : Azure版Cloudera Altus (ビッグデータ用)

Clouderaのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
CDH5.11	Spark v2.1	ADLS Gen1 Azure Blob Storage HDFS	ADLS Gen1 Azure Blob Storage HDFS	

表 17 : AWS版Cloudera Altus (ビッグデータ用)

Clouderaのバージョン	サポートされているフレームワーク	Spark/バッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
CDH5.11	Spark v2.1	S3 Redshift DynamoDB	S3 Kinesis Redshift DynamoDB	

表 18 : Microsoft HD Insight for Big Data

Microsoft HD Insightのバージョン	サポートされているフレームワーク	Sparkバッチでサポートされているエレメント	Sparkストリーミングでサポートされているエレメント	Standardでサポートされているエレメント
3.4	Spark v1.6 (非推奨)	Hive	Hive	
3.6	Spark v2.1	Hive	Hive	

TalendジョブでサポートされているCloudera Navigatorのバージョン

Cloudera Navigatorに対するサポートは、Studioで作成しているSparkのジョブで利用できます。これは、サブスクリプションベースのTalend Big Dataソリューションを使用しなければならないことを意味します。

Cloudera NavigatorではCloudera SDKライブラリーによって機能が提供されているため、このSDKライブラリーのバージョンと互換性があります。Cloudera Navigatorのバージョンは、ClouderaディストリビューションによってインストールされたCloudera Managerによって決まります。また、Navigatorのバージョンに基づいて、対応しているSDKが自動的に使用されます。

ただし、Cloudera Navigatorのバージョンによっては、対応しているSDKのバージョンがない場合があります。Cloudera SDKのバージョンと互換性があるNavigatorのバージョンの詳細については、[Cloudera NavigatorとSDKバージョンの互換性](#)に関するClouderaのドキュメンテーションを参照してください。

このドキュメンテーションで使用されている用語は次のとおりです。

- サポート: Talendは完全なQA 検証プロセスを通過しています。
- 互換性: Talendは完全なQA検証プロセスを通過していませんが、当該機能はCloudera V5.XプランでClouderaの下位互換性の一部として機能します。

Studioバージョン	Cloudera Navigatorのバージョン	Clouderaの関連バージョン	サポートタイプ
7.3	6.1.1	6.1.1	サポート
	2.4	5.5~5.8	サポート
	2.12.0	5.11~5.14	サポート
	2.5~2.7	5.5~5.8	互換性あり
	2.9.3~2.9.x	5.11~5.14	互換性あり
	2.10.3~2.10.x	5.11~5.14	互換性あり
	2.11.2~2.11.x	5.11~5.14	互換性あり
	2.12.1~2.12.x	5.11~5.14	互換性あり

データのプロファイリングでサポートされるデータベース

以下の表に、ProfilingのTalend Studioパースペクティブからサポートされているデータベースを示します。サポートされているサードパーティシステムの完全なリストについては、[Talendコンポーネントによりサポートされるシステム、データベース、ビジネスアプリケーション](#)（26ページ）を参照してください。

データベース名	データベースのバージョン
Amazon Aurora	Amazon RDS for Aurora
Amazon Redshift	Amazon Redshiftの初期リリース
AS/400	V7R1～V7R3
	V6R1～V7R2
Hive	データのプロファイリングでサポートされるHiveディストリビューション （46ページ）を参照してください。
IBM DB2およびIBM DB2 Z/OS ¹	11.1
	10.5
Impala (Clouderaのサブモジュール)	CDH5.1以降
	MapR 6.1.0 (YARNモード)
	MapR 6.0.1 (YARNモード)
	MapR 6.0.0 (YARNモード)
	MapR 5.2.0 (YARNモード)
	MapR 5.1.0 (YARNモード)
Informix	11.50
Ingres	10.2
Microsoft SQL Server	Amazon RDS for SQL Server
	Azure SQLデータベース
	2017
	2016
	2014
MySQL	Amazon RDS for MySQL
	Amazon RDS for MariaDB
	Azure Database for MySQL

データベース名	データベースのバージョン
	MySQL 8.0
	MySQL 5.1/5.5/5.6
	MariaDB
Netezza	7.2
	6
Oracle SID	Amazon RDS for Oracle
	Oracle 19c
	Oracle 18c
	Oracle 12cリリース1
Oracleサービス名	Amazon RDS for Oracle
	Oracle 19c
	Oracle 18c
	Oracle 12cリリース1
PostgreSQL	Amazon RDS for PostgreSQL
	Azure Database for PostgreSQL
	12.1
	10
	9.1+
	8.3
SQLite	3.6.7
Sybase (ASEおよびIQ) QLite	16.0
	15.7
	15.2
	12.7
	12.5
Teradata	16
	15
	14

データベース名	データベースのバージョン
	13
	12
Vertica	9.x

1 バイナリラージオブジェクト(Blob)はサポートされていません。

データのプロファイリングでサポートされるHiveディストリビューション

次のテーブルは、ビッグデータディストリビューションとHiveServerの間の互換性を示しています。

注: Hive埋め込みモードは、Hadoop開発者によるテスト目的で利用できます。埋め込みモードの場合、Studioは正常に実行されない可能性があります。

ビッグデータディストリビューション		HiveServer 1	HiveServer2
HortonWorks	HDP 1.0.0 (非推奨)	組み込みおよびスタンドアロン	
	HDP 1.2	組み込みおよびスタンドアロン	組み込みおよびスタンドアロン
	HDP 1.3	組み込みおよびスタンドアロン	組み込みおよびスタンドアロン
	HDP 2.0	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン
	HDP 2.1	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン
	HDP 2.2	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン
	HDP 2.3.2		スタンドアロン
	HDP 2.4.0		スタンドアロン
	HDP 2.5.0		スタンドアロン
	HDP 2.6.0		スタンドアロン
Cloudera ¹	CDH4	組み込みおよびスタンドアロン	組み込みおよびスタンドアロン
	CDH5	組み込みおよびスタンドアロン	組み込みおよびスタンドアロン
	CDH5.1 MR1		スタンドアロン

ビッグデータディストリビューション		HiveServer 1	HiveServer2
	CDH5.4 YARN		スタンドアロン
	CDH5.5 (以降) YARN		スタンドアロン
MapR	MapR 1.2 (非推奨)	スタンドアロン	
	MapR 2.0	組み込みおよびスタンドアロン	
	MapR 2.1.2	組み込みおよびスタンドアロン	
	MapR 3.0.1	組み込みおよびスタンドアロン	組み込みおよびスタンドアロン
	MapR 3.1.0	組み込みおよびスタンドアロン	組み込みおよびスタンドアロン
	MapR 4.0.1 YARN	組み込みおよびスタンドアロン	組み込みおよびスタンドアロン
	MapR 5.0 (以降) YARN		スタンドアロン
Apache	Apache 1.0.0 (Hive 0.9.0)	組み込みおよびスタンドアロン	
	Apache 0.20.23 (Hive 0.7.1)	スタンドアロン	
Pivotal HD 以上	Pivotal HD 1.0.1	スタンドアロン	
	Pivotal HD 2.0 (非推奨)	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン	組み込み(Linuxのみ)およびスタンドアロン(Linuxのみ)

1 Kerberos認証がサポートされています。